

2025 年奄美シーカヤックマラソン IN 加計呂麻大会 反省会 要約記録

日 時：	2025 年（令和 7 年）7 月 18 日（金） 午後 6 時 00 分
場 所：	役場 4F 第 2・3 委員会室
記録作成：	水産観光課 米田

出席者

ファイルの記載から確認できた出席者・出席機関は以下のとおりです。
・鎌田町長（大会会長）

- ・ 柳谷 実行委員長
- ・ 山畑 氏（委員）
- ・ 陸上自衛隊
- ・ 海上自衛隊
- ・ 瀬戸内警察署
- ・ 古仁屋海上保安署
- ・ 瀬戸内町商工会
- ・ 瀬戸内町ラグビー連盟
- ・ 水産観光課（事務局）

1. 大会開催結果

令和 7 年 7 月 5 日（土）・6 日（日）に、晴れ・中潮のもとで第 33 回大会が開催された。エントリー数は 260 艇・393 人で、出場数は 245 艇・374 人、完漕者数は 235 艇・363 人であった。天候に恵まれ、皆様の協力のおかげで大きな事故もなく無事終了することができた。

2. 反省点・変更点

【反省点】トランシーバーの運用について

2025 年大会ではトランシーバー全台数を 1 チャンネルで運用していたが、大会本部と記録係のやりとりが非常に多く、伴走船などと連携しているときに会話が途中で途切れることがあった。2026 年大会では、「大会本部⇄記録係」と「それ以外の全箇所」の 2 チャンネル体制での運用を予定している。

【変更点】経費削減の取り組み

ゴール地点のバルーンについて、2024 年大会ではヘリウムガスとロープで設置していたが、2025 年大会よりブローアで膨らませ 13 トンクレーンで吊り下げる方式に変更し、昨年大会より 9 万 5,000 円の経費削減を達成した。大会本部放送電話についても、2024 年大会の NTT 固定電話設置工事からドコモのモバイルレンタルサービスに切り替え、2 万 5,000 円の経費削減となった。

また、後夜祭の終了時間を 2024 年大会の 21 時 30 分から 21 時に短縮した。表彰については、出場者から「出場艇数 1 艇のみの部門も表彰対象にしてほしい」との意見があり、2026 年大会に向けて検討することとなった。

3. 意見・改善要望

【安全・コース管理について】

会場スロープの網の下部に重しがなく浮いた状態となっており、サーフスキーのラダーが引っかかったり、選手が乗り降り時につまずいて転倒する危険があるとの指摘があった。重しで沈めるよう改善を求める意見が出された。また、報道船がスタートギリギリまで待機しており危険な場面があったとして、早めに判断して移動させるよう対応を求める意見もあった。

ブイの流出・移動については複数箇所を確認された。特に嘉鉄のマネン崎沖では危険な場所を通過する艇が見られたため、ブイを 2 か所設置してその外側を回るよう誘導する対策が必要との意見が出された。渡連崎付近ではほどけたロープがサーフスキーに引っかかる事案が発生し、隠れ瀬付近のブイ位置の見直しも必要との指摘があった。さらに、勝能からそのまま押角方面へ突き進んだ艇が 2 艇あったとのことで、コース案内の改善が求められた。

事務局はいただいた意見を 2026 年大会に向けて協議し、しっかりと反映させていきたいと応答した。

【カヤック収納ラックについて】

スタート地点のカヤック収納ラックについて、登録番号をガムテープで表示していたが、入水・引き上げ時に収納場所を探す時間が多くかかったとの意見があった。改善案として、ハーフ・フルマラソンごとにラックを区分すること、

1人用・2人用カヤックで区分すること、重量の大きい2人乗り用のラックを手前に配置することが提案された。

また、引き上げ時の人手不足により道路上にカヤックを集積する事態が発生したため、人員の増員を求める意見もあった。

【ブイ設置・競技説明会・高速船対策について】

大会前日の瀬久井での陸上からのブイ搭載作業において、さらに約5名程度の追加人員が必要との意見が出された。なお、海上でのブイ設置作業の人数は現状維持で問題ないとのことであった。

また、艇検会場で15時の競技説明会開始後もカヤックを漕いでいる参加者が複数いたため、艇検会場にスピーカー等を設置してアナウンスで周知することが提案された。

スタート・ゴール付近を高速で横切る船が今年は多く見られたとして、地元関係船舶に対し速度を落として通航するよう事前に周知を求める意見もあった。また、最終走者後方を高速で横切った観光船があったことも報告され、同様の注意喚起が必要との意見が出された。

【後夜祭・出店管理について】

舞台への上がり防止アナウンスや階段配置は良好で、今年は混乱なく対応できたとの評価があった。一方、1店舗が道路上で出店していたため現場で注意・移動させたとして、次回開催時に出店ルールを再徹底するよう求める意見が出された。

【カヤック格納後の選手対応について】

ゴール後のカヤック格納について、「直すまでが選手の務めではないか」との意見が出された。一方、体力的に運べない選手も多く、ボランティアが対応することで大会のイメージ向上につながるとの意見もあった。スタッフが完全に預かって格納した場合、艇の損傷等の責任を運営側で負うことは難しいため、少なくとも選手が立ち会って自分の艇を確認することを条件とすべきとの意見が出された。事務局は次の実行委員会までに方針を決定・報告することとした。

4. 第34回大会（2026年）の日程

第34回大会は令和8年7月4日（土）・5日（日）を予定している。潮は中潮で、満潮が9時48分、干潮が16時10分となる。大会開催のタイミングで満潮から干潮の引き潮となるため、潮が沖に流れることが想定され、嘉鉄抜港コースになる可能性があるとのこと、コースについては第1回実行委員会で協議・決定する予定である。

5. 今後の対応事項

反省点の要点をまとめ、第Ⅰ回実行委員会前に資料として共有する予定であり、主要事項については LINE またはメールで早期に共有することとした。カヤック格納後の選手対応方針については次の実行委員会までに事務局で決定し報告する。第 34 回大会のコース（嘉鉄抜港の可否）については第Ⅰ回実行委員会で協議・決定する。
